※令和４年度以降入学生用

学校番号	３１９

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「家基 705 家庭基礎　気づく力 築く未来」（実教出版）						
副教材等	「生活学 Navi　資料＋成分表」（実教出版） 「家基 705 家庭基礎　気づく力 築く未来準拠学習ノート」（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

あなたはこれからどんな人生をどのように歩んでいきますか。家庭科の学習は、これからの人生を歩んでいくための、生きる力をつける学習です。それは、今の自分の状況に気づき、こうあってほしいという未来を展望することから始まります。自分自身の生活に何を求め、どのようなことに幸せを見出して生きるのか、という人生の価値観にもつながっています。

今の自分は、将来に向けたスタートラインです。小学校から中学校までの家庭科学習を思い出して、高等学校家庭科の学習を始めましょう。

２　学習の到達目標

（ａ）人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

（ｂ）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

（ｃ）様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭や地域の生活を創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	自立・家族	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 ・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。 ・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 ・家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	a:自分や、人の一生についての考え、結婚・家族・家庭の多様化や時代とともに変化する役割について理解できる。 短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 b: 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、自分の生活や将来について考えを深める。 家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、自らの考えをまとめることができる。 c: 将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。 家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	レポート 授業観察
	保育	・子どもの発達について考える。 ・子どものからだの成長のようすを学ぶ。 ・子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。	a: 子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 b: 子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 c: 子どもをとりまく状況について現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	定期考査	定期考査	レポート 授業観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	衣生活	・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。	a: 材料の選択・日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 b: 衣服の用途によって適切な衣服素材を考え、判断することができる。 c: 基礎縫いの確認のための実習などにおいて、積極的にとりくもうとする。	定期考査	定期考査	作品製作 レポート 授業観察
	食生活	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。 ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	a: 栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる b: 自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。 c: 調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。	定期考査	定期考査	調理実習 レポート 授業観察
3学期	消費経済	・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 ・これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。	a: 消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 b: 多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え判断することができる。 c: 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方について積極的に理解しようとする。	定期考査	定期考査	レポート 授業観察

※令和４年度以降入学生用

	環境	・日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。	a: 家庭生活と資源・環境との関係についての知識を身につけている。 b: 消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を判断することができる。 c: 消費行動・消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。	定期考査	定期考査	レポート 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度